

氏名	林 泰 堂
学位の種類	医学博士
学位授与番号	乙 第 1481 号
学位授与の日付	昭和59年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	PROGESTERONE RECEPTOR IN THE HUMAN UTERINE CERVIX (ヒト子宮頸部プロゲステロンレセプターについて)
論文審査委員	教授 産賀敏彦 教授 太田善介 教授 佐伯清美

学位論文内容の要旨

ヒト子宮頸部の細胞核 Progesterone Receptor(PR)の測定法及び頸部三成分中の receptor の局在濃度を [^3H] -promegestone(R-5020) と dextran coated charcoal (DCC) 法で調べた。基礎検討の結果、DCC の最高濃度は charcoal では0.5%、反応時間は0℃では180~240分、15℃では120~240分が最適であり、30℃では60分以後低下を示した。また0℃及び15℃での PR 量に差が認められなかった。Scatchard plot により $k_d=2.3 \times 10^{-10}\text{M}$ は high affinity, low capacity の部分は PR と考えられ、 $k_d=4.6 \times 10^{-9}\text{M}$ の部分は cortisol 負荷等により除外できなかった。この low affinity, high capacity の部分は type II PR の存在可能性も示唆される。局在濃度では、三成分間の PR の k_d 値は同様であり、これより PR は同一のものと考えられる。PR の濃度の差は Follicular phase では結合織 (CT) で最も高く (658.9 fmole/mg DNA)、次は円柱上皮域 (CE) (256.6) であり、扁平上皮域 (SE) が最も低かった (184.7)。Luteal phase において、三成分の局在濃度の差は認められなかった。PR の月経周期による変動は、CT では Luteal phase 時より Follicular phase の方が高かったが、CE 或は SE では両 phase 間の差は認められなかった。

論文審査の結果の要旨

本研究はヒト組織のホルモンレセプターに関する研究であるが、子宮頸部細胞核のプロゲステロンレセプターの性質、局在濃度および月経周期による変動について重要な知

見を得た価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。